

2005年記録会は8月20日(日)グリーンパーク(9:00~12:00)です!

2005年記録会は9月17日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)です!

今月から号の呼び方を変えます。3/6号(年6回発行の内の3号)の表示をやめて、出す月の名にします。例えば8月に出すのは「8月号」とします。年のせいでボケが進んでコンがらがるのと、解りやすいからです。よって、この号は8月号です。よろしく。

最近のインターネットで見ると、2004年からイギリスでも翼端投げの超大型HLGが競技に出ています。形はどう見ても日本の影響を感じさせる翼の平面型やV尾翼が見られます。記録はマダマダの様で60秒5マックス程度の様で、まだ日本=大宮田んぼは世界の最先端にいるようです。

彼らは身体がデカイのでパワーでは有利なはずですが、野球投げでもそれほどの大型機は見られません。載っている図面で見ると、展開スパン600mmが最大のように翼断面も繊細さが無く、抵抗が大きそうです。野球投げのあの大きな井村機などは「狂気のヒコーキ」でしょう。我々も気を付けて、余り狂気の人々の近くに行かない方が安全かと思えます。忠告まで……。

8月号がでる頃には秋のヒコーキシーズンに備えて、いそいそと、ヒコーキの整備やゴムの準備が始まります。ランチャーズでは機体の製作に勤しんでいる(何、やってない!!それで戦えるか……)事と思えます。この際10機ぐらいは作っておきましょう。

記録会報告	2006年6月記録会 / HLG	2006年6月記録会 / PLG、
	2006年7月記録会 / HLG	2006年7月記録会 / PLG
競技会報告	平城京大会	ランチャーズ合宿
お知らせ	まったけ大会の案内	FF日本選手権要項
FFサロン	FF徒然草その3 石井英夫	最新・イトプレーン 仁木士郎他
	イトプレーンの偏見に異議	公園用500円HLG・2
雑談天国	磁石付きウオッチ	
編集後記		

2005年6月記録会の結果(HLG/CLG)

6月HLG記録会報告

相沢……

今月の記録会は1年ぶりの東大島公園ですが、前回の記憶よりも広い感じ。草は結構な丈で膝上まであって小型機は回収が苦労です。集まりもホドホドで元気が取り得の少数盛栄の皆さん。雨に近い曇天で重厚・陰鬱な雰囲気の中ですが、さすがはランチャーズ。競技がはじまると実に賑やかで騒がしい。ここの駐車場は1時間200円なので、千円あれば午前中遊べる。空いています。

東大島は夏に飛ばせる公園ではもっとも広い場所(400m角)でサークリングのみだと、グライダーも練習出来る広さです。今回から安全な大きさであればHLGのサイズは自由と思ってましたが、皆さんマジメで14グラムをそろえて来て、オーバーは私の25グラム級のみ。この分では来月のグリーンパークも14グラム主流の様子。この日の気流は曇天で重いので、回収も草深いので40秒がいかにかに長い時間かよーく解りました。

事務局の吉田さんは別として、このところ皆勤賞の三田、三俣両選手は、この日も電車に乗っての参加。最近の2人は特に熱心です。競技の方は、朝早くから走り回っていた相沢会長が年甲斐もなく高度抜群、追う若手？の三田、三俣両選手は今一つ高度が取れない。超小型のちびた号クラスは案外、全身投げは巧くいかない。腕だけで「ヒョッ」投げる方が高度を取るのです。競技の終わり頃に気が付いてアドバイスしたが遅かったようで、三田選手は競技が終わってから「解ってきたぞ、わかってきたぞ」と高度を取りだした。H L Gの投げはケッコウ奥の深いものなのだ。

地元・平林兄弟の兄貴が勝手に髭を伸ばして、はじめは誰だか解らず。しかし、その髭の効果は絶大だったようだようで2位。吉田選手は紙でパツパと投げて3位、いつもニコニコしている三俣選手は何時投げたのかよくワカランが4位、若い方の平林選手は何でか不調のママ終わり。

ここの公園は近くの団地側に売店があるがビールがないが、公園まで自転車でアイスクリーム等売りに来るのは良い感じ。ライトプレーンの練習には適当な広さである。

H L G記録 6月18日、東大島公園 曇り、気温25°北東風1~2m 40秒MAX、10投中5投の合計

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1		F2	総計
1	相澤泰男	31	19	8	40	34	21	31	31	22	31	167				167
2	平林久之助	24	28	33	24	17	29	35	17	18	40	165				165
3	吉田利徳	21	37	29	34	30	28	22	0	18	18	158				158
4	三俣 豊	19	18	26	24	32	27	23	24	24	27	136				136
5	平尾寿康	27	21	20	19	26	23	24	17	27	29	133				133
6	三田祐一	19	20	23	17	0	18	1	25	25	16	112				112
7	平林久幸	18	16	15	19	21	26	20	5	9	12	104				104

夏期は場所の都合で変則的に2会場で記録会が行われます。今回も東大島とグリーンパークでありましたので、2つの報告です。

1. 6月東大島PLG記録会報告

平尾・・・

この日は松戸、代々木の遠征組と地元・東大島のグループとランチャーズという4グループの寄り合い所帯で、イイ感じでした。参加者も多く立派でした。競技の方は素晴らしいの一言で、皆さんよく上がる。しかし、時間が経つにつれて草の湿気で機体がコンガラがってきました。パチンコを甘く見てはいけませんね・・・。塗装、塗装。10回は塗らにや・・・。

さて、記録会の方は14名と久し振りに盛り上がり、イイ雰囲気。機体の見せびらかしや、座り込んでの雑談等、ランチャーズのみではあり得ないムードで素晴らしい。普段のランチャーズはちょっとギスギスしているのかな・・・。キツク反省。

この日は印西の前田さんの影響か、気合いの入っていた松戸勢がよくまとまっていて1、2位を独占。しかもその2名のフライオフは若手の工藤選手が優勝、林選手が悔しがっていたが2位でケリ。3位は終わってみると何時も成績のバラツキがない倉田選手、ま・長いナガイ経験が・・・ね。後は失礼ながら名前と顔が一致せず、良く解りませんでした。すみません。地元もナカナカ熱心で、3位が3人でフライオフ、6位も2人のフライオフと事務局に遊ばれてました。ランチャーズもう一人の勝山さんは無尾翼機でしだいに調子を上げたが12位でした。今回の場所が公園のせいか、ナカナカ雰囲気のイイ記録会でした。ノウハウの交換もありのイイ。年2回程度はここでやりたいな・・・。

追記 次回PLG記録会はゴム1g以下、スティック(棒)は40cm以下とし、MAXを45秒とします。5月~8月までの暫定ルールとする。

PLG記録 6月18日東大島公園、曇り晴、気温25°北東風1~2m 40秒MAX、5/10投の合計

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1		F2	総計
1	工藤陽久	27	39	40	40	40	37	40	40			200	46	60		260
2	林 善明	10	40	24	24	36	40	31	40	40	40	200	50	35		250
3	倉田泰蔵	35	40	20	38	40	40	38	29	40	39	199				199
3	梅沢久男	40	33	34	40	39	38	40	25	40	33	199				199
3	斉藤政宏	6	31	21	26	40	40	34	39	40	40	199				199
6	芝田栄三	27	40	32	40	35	5	40	35	20	40	195				195
6	芝田清吉	40	28	38	40	36	37	35	24	40	37	195				195
8	山田新作	34	34	35	37	28	40	32	40	33	28	186				186
9	高橋了治	37	23	37	40	12	36	29	35	21	12	185				185
10	三浦	18	14	31	40	39	35	34	35	27	29	183				183
11	杉本春吉	29	36	40	34	29	29	27	27	28	22	168				168
12	勝山 彊	24	20	24	15	12	26	36	40	31	34	167				167
13	安田正男	6	24	6	7	27	32	30	32	37	20	158				158
14	斉藤 実	16	26	29	23	21	26	24	20	24	23	129				129

2. 6月グリーンパークPLG記録会報告

河田・・・

小嶋さんが早々と5MAXをとりましたが、他の3人がしぶとく追いかけて3人F/Oとなりました。グリーンパークの三辺さんが3秒おちで4位、上位は僅差でした。小嶋さんの初の1位は、またお預けとなりました。1gのゴムで45秒を超えるには軽量にするか、公園の外に出ない範囲で少しサーマルをいただくしかない様に思いました。また、デサを付けて1gゴムで45秒以上をコンスタントに出す機体をまだ見たことがありません(河田)。

狭い公園での記録会は、多分に運に助けられる必要があります。出口式クールチューブを使えばデサコントロールは十分出来ますが、重りストーン方式は木に引っ掛かって回収が難しい。主翼ホップアップ式が望ましいのですが、機体製作の過程で上昇抵抗の増加をどこまで防げるかの工夫と軽量化が必要です。慣れると風を見ながら、広場ギリギリで降ろせるようになります。

追記：会場が違う記録会の成績は、条件が違うのでそれぞれ優勝とします。

PLG記録 6月18日グリーンパーク、曇り、気温25°微風0~1m 45秒MAX、5/10投の合計

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1		F2	総計
1	河田 健	34	45	45	38	45	45	37	45			225	44			269
2	内山日出夫	45	22	26	45	45	45	45	44	40	45	225	41			266
3	小嶋常男	45	45	45	30	45	45					225	35			260
4	三辺雄司	40	45	42	38	21	45	29	45	45	11	222				222

2006年7月記録会の結果(HLG/CLG)

7月HLG記録会報告

吉田・・・

HLG部門はバルサ機15グラム以下が5人、ペーパーHLGが7人の参加となりました。時々小雨の降る中で、11時には全ての選手が投げ終わってました。急にHLGの投げが決まり出した三俣選手と、ペーパーHLGの菅野選手のフライオフとなり、三俣選手の優勝となりました。初優勝です!!! 稲葉選手は岩槻からちびた号で参加です。武田選手は山形のペーパーHLGの選手です。出張の帰りに参加しました(吉田)。

今年はアカン夏で天候不順が続く7月、この日も小雨降る中の記録会となったようですが、さすがは天下の

グリーンパーク12名の参加は立派。記録で見ると5位までが177秒、6位になると135秒となって42秒の差がある。機体の大きさから見て、腕力には問題がない吉田選手なども成績が良くない。成績不良の原因は力の差では無さそうだ。その差は、機体製作の差（塗装不全）による狂いとか、心理的に弱い所があるとか・・・。三田選手みたいに前回の記録会で投げ方が「解ってきたぞ・・・」と言っていたが、そんなヤワイもんではおまへん。来月もちびた号だが、天候が良くなって記録がどう変わるか。

7月HLG記録 7月16日グリーンパーク 曇り晴33度 風0～1m/s 40秒MAX 5/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計	備考
1	三俣	40	39	31	40	30	40	32	31	40	33	199	5		204	
2	菅野	19	29	22	40	24	39	40	31	40	40	199	0		199	P
3	井村	27	40	26	26	40	40	32	37	24	-	189			189	P
4	池田	40	33	40	40	33	28	31	29	31	29	186			186	P
5	小川	20	40	27	40	30	25	30	37	22	29	177			177	
6	星野	24	11	6	28	22	32	24	21	27	5	135			207	P
7	吉田	1	25	10	30	5	26	30	19	6	12	130			130	P
8	稲葉	17	30	16	22	22	16	26	29	19	18	129			129	P
9	武田	20	19	24	15	18	18	28	21	1	14	127			127	P
10	今関	24	11	22	4	12	4	25	22	5	19	112			112	
11	三田	13	24	15	8	27	10	17	26	16	15	110			110	
12	吉野	9	14	17	18	25	24	10	21	20	16	108			108	

注：Uは翼端投げ、

7月PLG記録会報告

河田、平尾・・・

松戸クラブから7名の参加があり、久々に大勢の記録会となりました。参加者15名の内7名が5MAXを出し、第2F/Oでやっと決着しました。工藤さんが小型機を上手に返して連勝でした（河田）。

小雨が降ったり止んだりの条件だったようですが、風が無くほぼ全員が好記録だったようで、フライオフも大接戦で第1ラウンド60秒マックスで3人が残って、第2ラウンド80秒マックスでやっとケリ。松戸勢が1、3位を占めて、ランチャーズ何するものぞ・・・。しかし今回も、林選手は優勝を逃して晩酌がまずかったのでは。松戸勢はランチャーズとはひと味ちがったパチンコで、感覚的なところがあるが実技としては立派です。

7月PLG記録 7月16日グリーンパーク 曇天25度 北風2～5m/s 40秒MAX 5/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計	
1	工藤陽久	33	40	40	40	40	40					200	60	51	311	松
2	河田 健	36	40	40	40	40	40					200	60	44	304	
3	林 善明	37	40	40	40	35	40	40				200	60	39	299	松
4	横尾金蔵	34	40	39	40	40	40	40				200	47		247	
5	小嶋常男	40	40	40	40	31	40					200	43		243	
6	倉田泰蔵	40	40	40	40	40						200	32		232	
7	三辺雄司	32	53	24	36	31	34	60	29	33	49	232			232	
8	杉本春吉	4	24	26	11	22	51	30	27	26	60	194			194	
9	斉藤政宏	24	15	52	21	26	45	15	26	29	39	191			191	

10	村上 守	24	15	52	21	26	45	15	26	29	39	191		191
11	渡辺浩一	4	24	26	11	22	51	30	27	26	60	194		194
12	梅沢久男	24	15	52	21	26	45	15	26	29	39	191		191
13	村上夫人	24	15	52	21	26	45	15	26	29	39	191		191
14	佐藤幸男	12	13	5								30		30

2006年平城京大会・記録

平尾・・・

今回で第8回になる平城京ライトプレーン大会である。場所が奈良と言う必ずしも便利とも思えない場所だが、参加者はダブルエントリーも入れてだが52名と、凄い人数である。しかし、毎年高齢化している感じはする。参加者も様々で、競技目当ての人、この時期飛ばす場所がないので「ニギヤカシ」や、場所がら観光目当て等々、それぞれ楽しんでいたと思います。全く名前の知らない人も多く人間が見えないが、後で名簿を見ると有名人(過去の?)も結構いて話をしたかったナと思う。

さて、その他の競技は見てないので省略して、H L Gに限った競技報告である。参加しはじめて3年目だが、この場所の気流のクセがマダマダ理解出来ていない。大宮田んぼでは飛ぶH L Gがスパイラルで落ちるのである。何故か。安定性が悪いのだが結論は「上反角が足りない」である。

私の機体は滑空重視で上反角を10%程度に押さえている。しかし、関東の雄・春山選手のは15%以上ありそうだ。また、野球投げの老雄(老は早すぎるか?)井村選手の機体の安定度も大したもの。平城京でも両機共安定性は抜群で、今回しみじみと「まだまだH L Gが解ってないな」と反省しています。実践型・青空流航空力学は健在なんですね。

今年の飛行場は大極殿前・柵の部分が無くなって、その分広がってしまいました。しかし、ラクラクと2分は飛ぶ瀬谷のライトプレーンが1分も飛ばないので、ここの気流の難しさは抜群でした。

とは言え、上位は5人中4人が関東ですから立派なもの。フライオフは春山、井村、伊東の3選手の戦いで、90秒マックス1回目で伊東選手が脱落(怪物も返上か)して3位、関東勢の勝負となり2回目は2機共アッサリと接地、優勝春山選手、2位井村選手で決定。4位は、この日美声が出ていた池田選手、5位に機体が操れなかった大八木選手でした。6位に関西の中川選手、このところ絶好調の生駒選手も今回は関東の毒気にあてられて7位。参加者11名はチョットさみしいな・・・。

次回からは世界F 1 A第2位の高橋選手が参加します。

第8回平城宮ライトプレーン競技大会記録 6月5日、平城京跡、晴、風2~4m、気温23度

ライトプレーン

順位	氏名	1 R	2 R	3 R	4 R	5 R	F O 1	F O 2	合計
1	梶原正規	60	60	60	60	60	180	212	692
2	仁木士郎	60	60	60	60	60	180	87	567
3	宇津秀夫	60	60	60	60	60	153		453
4	吉田勝海	60	60	60	60	60	113		413
5	三井 隼	60	60	60	60	60	107		407
6	新留重道	60	60	60	60	60	103		403
7	寺川 進	60	60	60	60	60	97		397
8	平井久俊	60	60	60	60	60	93		393
9	古謝敏雄	60	60	60	60	60	86		386
10	岸田義和	60	60	60	60	60	60		360
11	石井英夫	60	60	60	60	60	58		358
12	荒谷靖久	60	60	60	60	60	57		357
13	北村四郎	60	60	60	60	60	0		300

14	嶋田 信	60	56	60	60	60										296
15	川阪末継	60	51	60	52	60										283
16	小松 照	43	60	60	60	60										283
17	野々村義則	57	56	38	60	60										271
18	山下 隆	60	60	60	45	38										263
19	吉田一年	10	60	60	60	60										250
20	毛利 毅	43	57	9	60	60										229
21	高田富造	60	9	60	6	60										195
22	岩村慧一	47	51	60												158
23	北尾和彦	26	16	36	28	47										153
24	白井淳子	13	16	19	27	39										114
25	林 淳雄	60	51													111
26	藤野 清															

注) フライオフ1回は180秒MAX、2回は240秒MAX。

ミニクープ&小型混合級

順位	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	FO1	FO2	合計
1	藤田清明	60	60	60	60	60	90		390
2	坂巻敏雄	60	60	60	60	60	89		389
3	脇田佳子	60	60	60	45	60			285
4	佐々木俊和	60	45	60	55	60			280
4	田邑什二	60	45	55	60	60			280
6	菅原 治	60	60	60					180
7	今村利勝								

H L G記録 60秒マックス、10投中の5投カウント

順位	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	10R	F01	F02	合計
1	春山清夫	40	35	60	60	31	49	60	60	60		90	43	433
2	井村真三	60	37	60	60	60	60	60	30			90	30	420
3	伊東哲男	34	60	60	58	38	60	60	39	60	52			352
4	池田 昇	35	29	57	32	48	60	43	60	60	48			285
5	大八木重伸	2	51	49	60	27	42	60	4	53	55			279
5	中川浩伸	25	27	60	8	60	36	39	60	60				279
7	生駒大造	19	27	16	39	55	49	40	60	60	28			255
8	田根信幸	27	8	10	13	60	35	11	18	19	60			201
9	斉藤勝夫	32	5	35	48	39	23							177
10	小笠原憲夫	28	22	39	15	27	26	29	41	24	4			164
11	平尾寿康	12	36	5	6	7	45	12	10	34	20			147

注) フライオフ1回目は90秒MAX、2回目は120秒MAXで実施

C L G記録 60秒マックス、10投中の5投カウント

順位	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	10R	F01	F02	合計
1	村田敏郎	40	60	60	33	58	36	56	51	43	60			294
2	高橋浪男	19	56	33	35	36	60	56	28	60	60			292
3	伊東哲男	36	54	38	28	57	30							215
4	村上善信	27	15	35	33	51	23	41	7	7				187

5	船木幸寿	25	44	5	16	25	18	25	3	37		156
6	小笠原憲夫	25	29	18	19	29	34	29	15	24	16	146
7	吉田新一	23	23	19	18	17	8	5	17	28	29	122
8	鈴木友信											

2006年ランチーズ合宿の報告

平尾・・・

ランチーズの合宿は、06年8月5、6日で新潟県阿賀野市にある「テクノガーデン工業団地」の公園を借りて開催。今年もまだこりずに続けています。真夏のこととて、参加人数が前日まで確定せず、申し込みは21名と例年通りの規模でした。今年は昨年に関越での渋滞でこりたので、常磐・磐越高速道経由で午前中に現地に着きました。ところが昨年開催の場所には誰もいない。

「アレ、日にちを間違ったのかな・・・」等々言いながら風の丘公園の高台に登って団地全域を見ると、こんな炎天下に和田ヶ池(昨年和田氏が機体を入れた)の畔に真っ白い立派テントが建っていて、車がずらりと並んでいます。早速行ってみると、今回も勝手連・新潟ランチーズが見事なチームワークで、春の競技会に続いて宿泊場所、テント、バーベキュー等々の準備をしてくれました。感謝と共に、さぞやくたびれたことと思います。大人が遊ぶのも楽じゃありません。幸いにも天候に恵まれて土日とも、暑いながら、快晴無風でした。

イベント・1

今年春の競技会手伝ってくれた地元のメンバーにお礼の意味でバーベキューパーティーを開催しました。高校生や中学生も顔を出してくれて、10キロの肉は見事に片づきました。テント2張り、バーナー、材料(肉と野菜)の調達から、焼くまで全て地元におんぶにダッコで、このままではランチーズは滅びそうです。本当に有り難うございました。常夏の新潟で本家のランチーズは座ってビールを飲み肉を頂くのみで、スミマセンでした。旨かった、ウマかった。今回の合宿は食べるのが主で、ヒコーキを飛ばす人はボチボチ。夏のうさ晴らしとしては「文句なし」

イベント・2

6日、朝の6時から「手込めのH L G競技会」を実施。無経験の人もH L G大嫌いの人も無理矢理H L Gを持たして競技をしました。しかし、これが大成功で楽しかった。私は女性と年寄り用のU H L Gを4機ほど持参して投げて貰いました。また、他のF F機ベテランの人にも、手持ちのH L Gで強引に「初体験」をして貰いました。

人間の能力・恐るべし。10回程度の練習で、何とマックスを出した和田氏、50秒を出した櫛引氏(ギッチョで!)、35秒を出した知子ちゃん、33秒の前田さんと、将来有望な新人を発掘(埋めといた方がヨイかな)してしまいました。又、パチンコでしたが櫛引のお姉様が51秒の好記録を出し優勝しました。H L Gの半プロの大矢さんは名人・春山氏のU H L Gを持参したものの、久しぶりで飛ばし方がわからない。そこで、朝の6時というのに春山氏を電話でたたき起こして「どう飛ばせば、イイのよ」と聞いていました。そのおかげで60秒を出して3位。ヒコーキが良ければ飛ぶワナ・・・。

新潟勢は合宿の準備疲れかなと思っていると、元気に50秒の後半の記録を出して笠井氏が2位、長井氏が4位、細海弟氏が6位、しかし、細海氏のおんちゃん・勝氏は17位と外れました。この日魚沼から飛び入りのC F F Cの林氏は力みすぎて19位。

このひは出たそれぞれの出した記録を見て、相沢会長が偏見を持ってハンデを決めました。ところが、これに誰も文句がないと言う大変公平な方法でした。今回、気をよくした人は9月からは記録会に参加予定です。「大好評」で楽しんでくれたのは良いのですが、機体のお持ち帰りが3機、注文が1機と私の負担は結構な物で、嬉しいヒメイ・ヒイ・・・・・・です。

お知らせ

2006年まつたけ大会(中部CFFC秋期)案内

開催日時 2006年9月24日(日) 午前8時30分から
開催場所 鈴鹿市池田たんぼ
種 目 F1G、F1H、F1J、HLG、小型混合級
主 催 CFFC
そ の 他 参加費等はランチャーズ掲示板等ご覧下さい。

平成18年度模型航空フリーフライトF1A、F1B、F1C日本選手権要項内

主 催 日本模型航空連盟
公 認 日本航空協会
期 日 平成18(2006)年11月3日(金)4日(土)5日(日)
会 場 千葉県香取郡干潟町万歳
種 目 フリーフライト F1A、F1B、F1C
規 定 FAI スポーツ規定に準拠
参 加 資 格 日本国籍を有する選手権期間中有効の模型飛行士登録者および日本航空協会が発行する当年度有効のFAI スポーティングライセンスを所持している外国人。

選手権委員長 日本模型航空連盟 会長 東 昭
競技委員長 FF委員会 委員 吉田 利徳
競技副委員長 FF委員会 委員 坂巻 敏雄(F1A担当)
FF委員会 委員 小林 茂夫(F1B担当)
FF委員会 委員 津田 晃英(F1C担当)
陪 審 員 日本模型航空連盟 理事長 落合一夫
競 技 役 員 会 員

申 込 方 法 所定の参加申込書(郵便振替用紙)に必要事項を記入し期日までに参加費を振り込むこと。
なお、いったん納入した参加費は理由の如何を問わず返却しない。

締 切 日 平成18(2006)年9月8日(金)(消印有効)

参 加 費 20,000円(1種目)(2泊)

同 伴 者 同伴者の宿泊を斡旋する。1泊につき8,000円を参加費に加算して申し込むこと。
食 事 第一日夕食および第二日夕食は参加費に含まれる。同伴者については1泊につき一回の夕食が含まれる。
期間中の夕食以外の食事は各自で調達すること。

参 加 受 理 確実に参加申し込みを行った会員には、参加受理書を送付する。選手は所定の受付時間内に本部(宿舍)に参加受理書、機体仕様書を提出し受付を完了すること。

受 付 11月3日(金)16時~18時の時間内に宿舍本部に必要書類を提出すること。都合により時間内に到着出来ない場合は、予め連絡すること。また、下記機体検査等を希望する選手は受付時にその旨申し出ること。

機 体 検 査 主催者は機体仕様書に基づき、機体の仕様確認と模型飛行士登録番号の記入を確認する。原則として競技前の機体検査は行わない。ただし、F1Aについては曳航索、F1Bについてはゴム重量について検査を行うことがある。選手が希望した場合には機体検査を行う。競技中、随時抜き取り検査を行う。この検査で不合格の場合には、それ以前の記録は全て無効となる。

選手 の 責 務選手は他の種目の役員となること。不可能な場合には代理人を立て、参加申込書に記入のこと。役員としての業務を怠った場合、および本要綱に正当な理由なく違反した場合には当該選手の競技記録の一部または全部を取り消すことがある。

競 技 方 法 競技は2004年発効のFAIスポーツ規定に準拠した公式飛行と決勝飛行を行い、選手権者および順位を決定する。天候などの状況によって競技を延期または中止することがある。延期の場合は追って発表する。

損 害 賠 償 人畜、土地、建物その他の物件に対し競技その他により損害を与え賠償が必要な場合は、当該選手が全額を負担する。

世界選手権候補 平成17年度、18年度の本選手権の持ち点を合計し、合計点の上位より順番に次回世界選手権の日本チームの選手となる資格が与えられる。

持ち点 1位 - 12点 2位 - 9点 3位 - 7点 4位 - 6点 5位 - 5点
6位 - 4点 7位 - 3点 8位 - 2点 9位 - 1点

宿 舎 国民宿舎 飯岡荘 千葉県海上郡飯岡町萩園 1437 0479 57 2661
日 程

11月3日(金)

16時~18時 受付、夕食、19時 開会式およびミーティング

11月4日(土) F1A、F1C

1ラウンド	7:00	-	7:55
2ラウンド	8:00	-	8:55
3ラウンド	9:00	-	9:55
4ラウンド	10:00	-	10:55
5ラウンド	11:00	-	11:55
6ラウンド	12:00	-	12:55
7ラウンド	13:00	-	13:55
フライオフ (1)	14:30	-	14:40
フライオフ (2)	15:10	-	15:20

11月5日(日) F1B

1ラウンド	7:00	-	7:55
2ラウンド	8:00	-	8:55
3ラウンド	9:00	-	9:55
4ラウンド	10:00	-	10:55
5ラウンド	11:00	-	11:55
6ラウンド	12:00	-	12:55
7ラウンド	13:00	-	13:55
フライオフ (1)	14:30	-	14:40
フライオフ (2)	15:10	-	15:20

閉会式

日の出 6:04 / 日の入り 16:42

連 絡 先 各団体のFF委員 又はFF委員長 金川 茂 0476 28 4108 (夜間)
skane@nctv.co.jp

あほうどり風FFつれづれ草 その3

まちだ - あほうどり 石井英夫・・・

ボブ・ホワイト氏のハイテクメカ拒否、なぜ？

さて、ボブ・ホワイト氏です。小生は生前のボブ氏と親交をもたれた小堀三夫氏や吉岡靖夫氏のようにボブ氏の警咳(けいがい)に接したこともなく、まして氏のフライト現場を実見したこともない人間ですから、ボブ氏個人を語るには著しく情報を欠いています。小生の関心事は、ボブ氏がなぜ時流に逆らって頑強にノンメカ流儀を押し通したかの1点にあり、以下述べることは、すべてその1点をめぐる考案になります。風聞によれば、ボブ氏はモンリオール・ストッパーを始めとして、VISシステム、カーボン構造翼、可変ピッチプロペラ、そしてプロペラ遅延スタートシステムに至るまで、新規メカと名のつくものをことごとく拒否されたと聞きます。実見したわけじゃありませんので風聞です。ちょっと心配があるんですが、この話風聞を元に進めてしまって大丈夫なんでしょうか。もし事実が違っていたら、この話すべてがご破算、ゴメンナサイとなるんですが。

ボブ・ホワイト氏がゴム動力F1Bの分野で世界に知られる強豪だということは、小生F1B種目になれそめの70年代初頭にはもう知っていました。関連記事をいろいろ読んでいたんだと思います。73年、オーストリア・ノイシュタットでの世界選手権に小堀氏が3位入賞のとき、ボブ氏はたしか5位で、これがご両氏親交の始まりだったことは、よく知られています。その後もボブ氏は世界選手権戦では上位に顔を出す常連で、発表図面がまた有名でした。ずっと後になりますが、87年には念願の優勝を果たされています。

F1Bのプロペラ機構モンリオール・ストッパーというのは(なんでモンリオールか誰かおしえて)動力ゴムのトルク変化により、ストップピンを孔に落として強引にプロペラ回転をとめてしまうプロペラ折畳み機構ですが、それまでのスタンダードだったコイルバネ伸縮方式より動作確実だということで、70年代の中ごろ、小生も遅ればせながら新方式に切り替えました。わがF1B仲間はほぼ全員新メカ採用者だったと思います。ところが海のむこうのF1Bの強豪ボブ・ホワイト氏はどうしてか新メカ不採用だと。なんでかな、この方が動作確実なのに。そのうち、モンリオール方式ではゴムの付



着がどうこうとかのボブ氏の言い分らしきものが伝わってきて、へえ、アメリカでは砂塵問題とかそういうことがあるのか、それにしてもボブ・ホワイトさんもガンコだね、当時はそんな程度の受け取り方だったと思います。

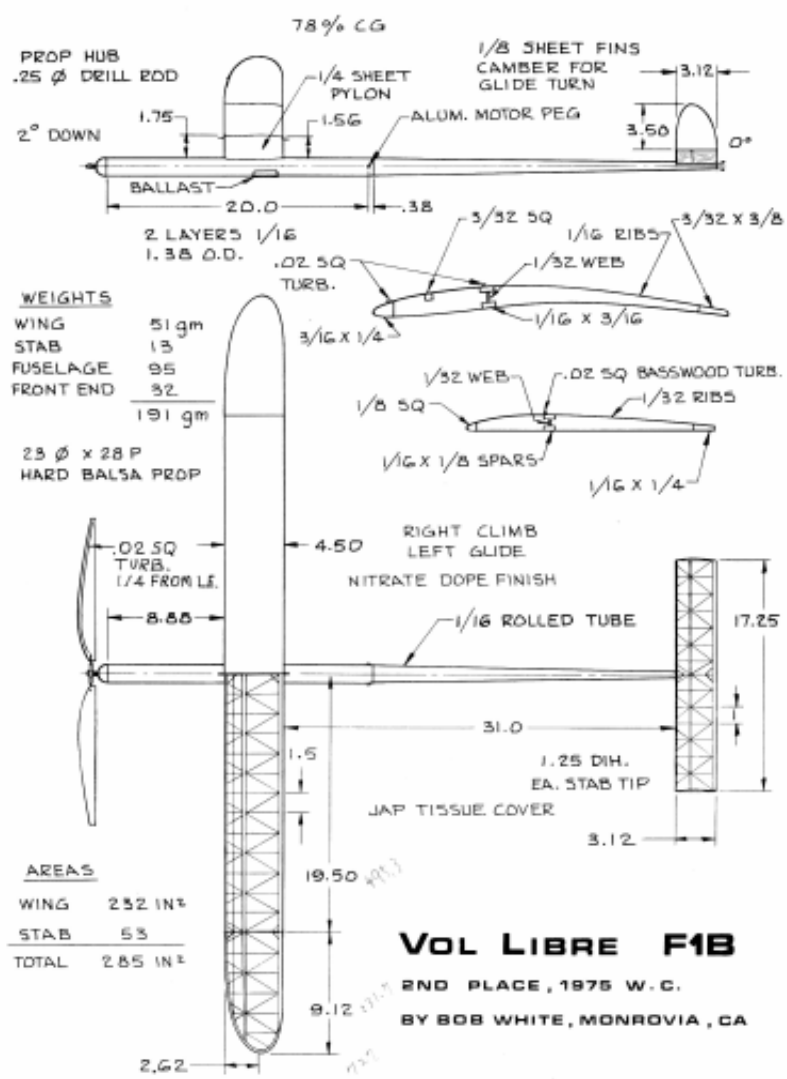
70年代の終わりから80年代の始め、当時躍進中の中国チームがVIS(可変インシデンス水平尾翼)方式採用で、かくめいてきともいえる垂直上昇パターンを完成したという話が伝わり、わがF1B仲間にも新方式採用者が続々現れるに及んでも(岩田選手が早かったですね)、聞くところに寄れば、ボブ・ホワイト選手はこれをやらないと。これはいよいよホンモノだという 2005年のボブ・ホワイト氏 気がしてきましたね。何がって、ボブ氏の意固地ぶりがです。常識的に考えて、モンリオール・ストッパーもVISシス

テムも、性能のことを考えればやらないよりやったほうが有利なこと間違いなし。この後に現れる可変ピッチその他の新メカ類にしてもそうです。現に競技に勝ちたい選手連中がこぞってこれを行っているんですから。なのにボブ氏、あっぱれというべきか不動のノンメカ流。怠慢でやらないんじゃないんです、断じてオレはやりたくないんだよ、という強烈な意志が伝わってきます、なぜなのか？さあここが問題で、大胆無謀といわれようともここから小生のひとり推量になります。

だいたい、ボブ・ホワイト氏ぐらいの大家になると、技術的に心情的にも「聖域」部分を秘匿しているんじゃないかと、小生思っています。ホンネは実技・作品でしか語らない。FFは芸術じゃないかも知れませんが、ホネのある芸術家ならおおむねそうです。ボブ氏と親交をもたれた吉岡氏によれば、晩年のボブ氏はF1G級（ゴム10グラムのクーブ級）を楽しまれていたそうですが、当然これもノンメカ流で、「ナニ、これで飛ぶんだからいいじゃないか」とまあ、ニべもない返答ぶりだったそうです。となれば、モンリオールはゴミがどうかは、コジツケとって悪ければ、社交辞令ぐらいにしか小生には受け取れません。「聖域」はもう少し奥にある、まともに質問ぶつけてホンネが返ってくるとは限らない。

不動のノンメカ流で意地を通したボブ・ホワイト氏の心事を忖度（そんたく）するなら、小生の推理は単純です。ハイテクメカなんぞはやらなくて大丈夫、競技には負けやしないぜ、とボブ・ホワイト氏は類まれ

なる勝負師です。その自信はゆるがなかったのではないかと。F1B競技がMa x 3分競技であるなら3分飛ばせばいい。ハイテクメカも良いだろうが、オレにはもっとやるべき大事なことがあるように思える。フライトパターン完全調整、競技でミスをしないこと、そして気流読みへの全力集中。まだ何かあるかな、動力ゴムの選択、管理、使用技術か。これらをボブ氏は徹底的にやった。これが並みの連中には出来ないんですよ。ボブ・ホワイト氏といえば、新技術には背を向けるばかりの一徹者というイメージがありますが、実像は基本技術にもっとも忠実、オーソドックスなるF1B競技のプロ、というのが小生の理解です。むかし「ボブ・ホワイト式フライトパターン調整法」というのを読んだことがあります。当方もまた「4ステージ調整法」なるものをいじっていた頃で、全面的にボブ・ホワイト流に賛同というわけではなかったんですが、フライトパターンを管理し切るボブ氏流のシステムというものは感じとれました。理論というよりは実技・経験をもとに煮つめ



られたシステムなんだろうな、と当時は思ったことです。

周辺技術の細かいところまで他選手と違うボブ・ホワイト流、というのはたとえば動力ゴムの扱いに関連する技術。ゴム生産国に居てボブ氏ほどの立場にあれば、さぞ有利なかたちで良質ゴム入手の便があり得た筈と、ただ送られるブツを待つだけの日本国の選手にはそれだけでも羨望ものですが、そのうえにです。選別し

て競技に使うのはこのゴムと決めたら、すぐには使わず冷暗所に3年ほどおいて熟成を待つんですと。ゴムの潤滑にシリコンオイルを使わないというのもボブ・ホワイト流で軟質石鹸と何とかを配合する自家製液だというのですが、ずいぶん手数のかかることをするものです。小生がこれを覚えているのは、ずいぶん早期にご自身が書かれた技術レポートを読んだからですが、ボブ氏がずっとこの方式を続けられたかどうか、そこまでは知りません。ボブ氏流もここまでくると、もう「秘儀」という感じで、明白なことはマネする選手が後続しないということです。やらない選手がボンクラなのか。

ボブ氏はまた類まれなる気流読み巧者じゃなかったかと、わが国有数の気流読み下手を自認している小生、ずっと畏敬の念をもっていました。ボブ氏の勝負強さの最大の武器がボブ氏の気流読み上手じゃなかったかと。実は小生1度だけですが、ボブ氏気流読み風景をお見かけしたことがあります。1977年、デンマーク夏の大会のことでした。そのときはボブ氏は選手じゃなく、オブザーバーか何かで来ていられたので、ボブ氏ご自身のフライトを見ることは出来なかったんですが、ボブ氏主導の米国チームの気流読み風景のほうは印象に残っています。まず、ストリーマーポールが見たこともない程高かったこと、また風になびく幅広のストリーマーがおそろしく長いんですが、それだけじゃないんです。米国チームの陣営はわが日本チームの風上位置にあって、そこから野球ボール大のシャボン玉やら白い綿毛様のものやらが間断なく飛んでくるんですね。顔に当たったり目に入ったりとさうさいと、わがチームの三上裕三マネージャーが怒って抗議に行くといきまくだす。先方サンはあれが有名なFF界の大家だからと、みんなで引き留めたという1幕がありました。

ここからは、デザインのユニークさで知られるボブ・ホワイト流の機体の話になるんですが、残念ながら小生はボブ・ホワイト機の実物を見たことがないんです。もちろん飛んでいるところも見ただけです。発表された図面や写真などから推してこの話やっつけるんですが、小生の認識が間違っていましたらゴメンナサイです。小生がまず注目したいのは、特異な形状のいわゆるボブ・ホワイト翼型についてですが、この翼型についてはなぜか言説のたくいを見かけませんので、私流の解析を試みます。ボブ・ホワイト翼型がいつう変っているというのは図面を見ればすぐにわかるんですが、前半がお魚のボラの頭みたいというか、丸棒みたいというか常識外の対称形で、後半で「へ」の字の形に折れ曲がっています。最初にこれを見たとき、なんだこれかと思いましたね。

70年中ごろまでは、まだベネデク6356翼型につかまっています、小生なんとかこの翼型ベースで性能よくなるか、あれこれやっていました。ベネデク翼型というのは、長い長い実機翼型の呪縛から離れて、ようやく模型空力世界を確立し得た、革命的なFF専用翼型です。しかし前縁近傍の境界層流速を意図的に高める（つまり前半部で揚力を稼ぐ）タイプのベネデク翼型では、前半の加速域でエネルギーを使い果たしてしまうらしく、エネルギーが後半部まで持ちきれない。揚力係数こそ大きいんですが、後半での境界層剥離が早くて、揚抗比性能が伸びないんです。翼厚を薄くするのはいくら効果があるんですが、その他いろいろやっても大した効果がない。

あるときF1Bメイトの芝地正履氏がボブ・ホワイト翼型そっくりコピーの新作機を持ってきたんですね。多摩ニュータウン造成地でした。ボブ・ホワイト翼は速度はやや速いんですが、小生のベネデク翼とはまるで滑空の伸びが違うんです。手投げで何度試してもそうでした。これはまいりましたというんで、小生の「TAMA翼型」なるものはここからスタートするんですが、「TAMA翼型」のひとつの母体が「ボブ・ホワイト翼型」でもうひとつの母体が先端の尖った自然流乱流翼型、といえばもうご存知「HLG翼型」です。

70年初頭に早くも層流翼型思想を採り入れたボブ・ホワイト翼の先進性、誰も言わないものですから、小生ここを大きく評価したいのです。ボブ・ホワイト氏は当時の翼型思想からは、10~15年は先行していたと。ただし、「ボブ・ホワイト翼型」が学術的な意味で「層流翼型」といえるかどうかはわかりませんよ。F1Bくらいのレイノルズ数空域で層流翼が成立する筈がない、という専門家筋の説がありますから、ここは一步引いて、「層流思想的翼型」といっておきましょう。ですがここでは、ヨーロッパ有力選手といえども長いことその呪縛から離れられなかったベネデク翼型との比較をいつているので、現行翼型との比較ではありませんから、お間違いのないように。現行翼型はもう別次元のレベルで、申し分なく研究しつくされています。以下次号

6月号の冒頭で「竹ひご・ライトプレーン」をボロクソに言いましたが、「入門機としては不適である」との考え方のみで他意はありません。と言うよりも公園では良く飛ぶ・竹ひごライトプレーンは尊敬されますので、マニアの方々がのめり込むのは、苦勞のしがいがあるし大賛成なのです。

小学生の頃、全て曲がり無く作ると直線飛行するので、都会からの転校生が旋回飛行させているのを見て驚いた記憶があります。ましてや、螺旋上昇など、どこかが狂っているヒコーキだと思ってました。前置きはさておいて、今回は瀬谷グループ?仁木さんのライトプレーンの紹介です。

さすがに、300機目ともなると設計も固まってきて、今後は市販ライトプレーンもこれに準ずるべきと考えるほど納得出来る形です。今回仁木さんから頂いたのは、解説なしの丁寧な手書きの図面4枚。これから仁木さんの300機の経験の全てを読み取ろうと言うのですから、無謀か・。

1. 竹ひごライトプレーンとは何者か

ところで、竹ひごライトプレーンとはよく「入門機」と言われますが、何者なのでしょう。

ライトプレーンて、どんなヒコーキ

どう考えるかの参考として、石井英夫氏からの受け売りで個々の模型飛行機のR数と揚抗比について考えていきたいと思います。R数の推定値は、紙飛行機・10,000、ライトプレーン・15,000、PLG・15,000、HLG・25,000、ミニクーブ・20,000、F1G・23,000、F1B・35,000、F1A・50,000となります。ついで揚抗比は紙飛行機5~6、ライトプレーン・5~6、HLG・10、F1B・15、F1A・20あたり。翼面荷重は紙飛行機9g、PLG・6g、ライトプレーン・6g、HLG・9、F1G・8g、F1B・14g、F1A・12gでこれまたライトプレーンはパチンコに近いのです。

資料としては、有名な木村秀政氏の戦前ライトプレーン・テストのデータがあります。風洞風速4m/秒、テスト機は帝国模型飛行機協会A級、最大翼弦120mm、アスペクトレシオ7.3、キャンバー6%の機体で、滑空スピードは3.5m/秒、向角11度で最大揚抗比5.7となっておりますが、この向角では普通に飛ぶのは難しい。木村先生は改良しても揚抗比4.5が最大値と見ています。但し、足を取ると抗力が27%減少し揚抗比は32%増えて、向角3度で揚抗比5.8になると推定しているの、空転ペラの改良等で揚抗比6を超える望みがあると考えます。

そこで、石井氏のR数に刺激され模型飛行機界の実験データをインターネットで検索した。残念ながら最近の適正な環境(R数)での実データは岡本正人氏の1つのみ。これを基にした各大学のシミュレーションは沢山ありますが実験資料はなく、大げさに言えば全て岡本正人氏のデータをアテにしたものです。模型界では石井英夫氏の推定値すら貴重なデータになる事情がわかります。

さて、その紙飛行機界で有名な1995年の岡本正人氏の翼データですが、R数11,000、テスト翼はアルミ製、翼弦30mm、アスペクトレシオ6です。その表から見た揚抗比は、キャンバー3%、6%、10%の場合に向角8度で6.2~6.5となっております。ちなみに滑空速度を近似値計算してみると紙飛行機5.2m/秒、PLG4.0m/秒となって、ライトプレーンと総合性能は似たり寄ったりになるのかと思います。これを参考に模型飛行機の差別化を考えたいのです。

数値で見るとライトプレーンはパチンコの仲間になります。多分、R数がここまで低いと翼の平面型、翼断面等の滑空についての工夫の余地はほとんどありません。翼に関しては、理論的に良いと言われるものを全て取り入れるしかないのです。但し、ライトプレーン翼型だけのテストで風速1.2m/秒の場合、最大揚抗比12、実用揚抗比9と言うデータもありますので、軽量化して低速にすると良いのかもしれませんが。

ライトプレーンをやる人に教えるべきノウハウとしては、機体の歪み取り、上昇調整しかありませんが、はあのヤワな機体ではなかなか決まらない、は市販のプラスチックコメタルでは、どういじっても毎回ラストが動く、となってしまいます。その他の工夫としては、プロペラの振動対策、ゴムの巻き方(ワインダー)まではよいとして、良いゴムの入手方法まで来てほぼ挫折します。今のFF界は、情報が限られた特殊世界であり、この事は現在のFF界が抱える問題そのものなのです。

ライトプレーンをやると、どんな得があるか

竹ひごライ

トプレーンが飛ぶようになれば、そこから得られた滑空と旋回のバランス(主翼、尾翼、重心等)と上昇調整

は、ゴム動力機の入門機としては有益な経験でしょう。ライトプレーンでは自重対動力重量比から見ても、動力上昇に注力して、唯ただ高度をかせぐことに意味があります。他のヒコーキのような滑空機としての工夫の余地はほとんどありません。しかし、ライトプレーンから得られるノウハウや楽しさは十分にイジル価値があると断定してイイと思います。

入門者はいるか

竹ひごライトプレーン

プレーンが「入門機」とすると、その成果はどうか。確かに竹ひごライトプレーンは入門機としてよく使われます。しかし、ライトプレーン専門のグループで、初心者勧誘活動を継続的にしているグループがどれだけあるのでしょうか。私もスチレン・ライトプレーンで「子供の為の飛行機教室」を25年ほど続けています。多分、1000人程度の被験者がいるはずですが、私の実績ではそれによってモケイ飛行機を始めた子は、近似的にゼロと言わざるを得ません。思い出になったのですが、FFの種まきと言えるかという疑問で、実感的には種まき以前の「地ならし」程度が実感です。

それと比べると、根気よく27年続けているランチャーズのH L G月例記録会の方が、はるかに実績があります。1つにはホームページでの広報活動、毎週あちこちの公園での公開実技と普及等々で、新人獲得実績では10年で30人は固い。又、パチンコを入れると15年で50名と豪語したいところです。さらに我田引水ですが、現在H L Gに絡む国際級競技者は20名を超えます。

規定について

現在、FF委員会でライトプレーン規定を検討中です。これまでの規定はほぼ戦前のままで、これを生かして、どうすれば合理的なシバリが出来るか。

これまでのライトプレーンは胴長50cm以下のみで、重量及びゴム制限無し、折りペラ、空転ペラ等々の何でも有りの種目です。初心者用としてはこれでよいのですが、ベテランがやるとなると、人によって方向がバラバラになります。昔は手に入る材料が限られていたので、ほぼ原型(桧胴、竹ひご翼、空転ペラ)を保っていました。しかし、現在では、簡単にノウハウも入手出来るし、取り組むのに経済的にも余裕があって、みな時間の有り余るサンデー毎日組なので材料も自由自在。その結果作り手によって、全く異なるヒコーキが出来上がります。例えば、機体重量5グラム等という超軽量のひ弱いヒコーキ、一方カーボンパイプを使った80メートルも上がる頑丈な垂直上昇機もありです。規定化の目的は、競技条件の統一にあります。誰が作っても「ある飛行時間内に入ること」が重要です。同一機種のパフォーマンスに2~3倍の差があるのではおかしいのです。結局は「飛ばなくする規制」が必須であり、どうしてもある程度自由度は失われます。

他の種目の規定を調べるとほぼ 動力の制限、機体重量の制限、大きさの制限の、この3つになります。よって、ライトプレーンの場合は例えば、動力ゴム5グラム以下、機体重量20グラム以上、胴の材料長が50センチ以下の棒状(被覆胴は不可で、プロペラと火縄部分は別)、プロペラは空転式とする、等々に決めればほぼ問題が無くなるはずです。

この中で機体の大きさの制限は不要とする意見があると思います。しかし、F1Gの例で言えば重量70グラム以上のみでは、スパンが100cmから150cmまであり、一見するとハイテク材の普及と相まって別種目の飛行機に見えます。一時流行った、超大型F1Gは室内機的でちょっと風が吹くとバラバラになります。ライトプレーンでは、まだハイテク材の翼はありませんが今後どうなるか。

2. 仁木機の特徴

ここでやっと本題に入ります。頂いた図面の機体は上記の仮定の規定に合格します。これまでの市販のライトプレーンキットとの差は、主翼、尾翼面積が小さい。モーメントアームが長く胴長である。翼平面型が方形翼に近い長方形である。上反角が大きい(12%)。プロペラ直径がデカイ(スパンの60%)。

高いパイロン付きである等々です。その他の特色として、胴体はカーボンパイプ、プロペラは木製で自作、垂直尾翼は胴体下取付で、モーメントアームをかせいでいる、全面的抵抗減少化等々。プロペラ削りが面倒だが、このまま作ってもあらゆる競技会で飛ばせるし、又、優勝がねらえる機体である。子供が飛ばしても大丈夫。

時代が違うとは言え、仁木氏の機体は、かの有名な木村秀政氏設計のA型より数段優れた設計だと言えます。戦後、長く続いている平和のおかげで経験を積んで、正しい模型ヒコーキのスガタ形がようやく見えてきたと言えるのではないのでしょうか。図面別添

ライトプレーンの偏見に意見あり

新潟・林・

さて、今日メールいたしましたのは貴クラブの電腦会報を拝見しまして自分なりに感じたことを述べさせて頂きたかった為です。新潟大会のご報告、細海氏ご一家とともに大々的にとりあげて頂き、地元の私としても嬉しい限りです。

また、この会報を編集されている方が偏尾(偏見の偏)さんと知り、冒頭のFF入門機についての記述に関し、皆さんからすればまさに初心者域である模型飛行機歴4年という、私だからこそ言えるのではないかという事を述べさせていただきます。

私は4年前ライト・プレーンからこの世界に入りました。CFFCの通信会員になる前のことです。ライト・プレーンはキットがどこでも手に入れ、製法や場所を選ばず作れるからでした。周りに模型飛行機をやっている人が見付からなかったため、各クラブのHPから当初は知識を得ておりました。サイド・スラスト、ダウン・スラスト。取り付け角、迎角。リブ組翼。推力、ピッチ。モメント。主翼捻り上げ上げetcの言葉と意味と調整法は全てライト・プレーンが教えてくれた事柄です。もちろん大事なゴムの取り扱い方法についてもです。

ゴムの件はF1Bまで続くゴム機に限るとして、その他の事柄は国際級まで続くFF、又はRC等他の模型飛行機、果ては実機にも繋がる事ではないでしょうか。CFFCに入り、国際級の選手に「F1Bを飛ばせるようになるにはどれ程の経験が必要ですか?」と尋ねたところ「ライト・プレーンを2年も続けていれば可能」との答えをもらったことがあります。

HLGの存在は知っていましたが、私の当時バイブルとなっていた萱場達朗著「やさしい模型飛行機ガイド」には「一見簡単そうに見えるが技術的にはかなり難しく、ひとりでマスタするには何機か壊す覚悟が必要」とありました。製法を見ても、ゴム機が切った貼ったの作業となるのに対しHLGはひたすら翼型を削り続け(ソリッド翼)、さらに何層もクリア・ラッカを塗るとあり、気が遠くなりそうに始める気になれずにいました。

そんな私がなぜHLGを始める気になったか、それはライトプレーンと同じく製作の場所と手間をとらないペパグライダの存在を知り、グライダに目覚めたからでした。バルサHLGに挑戦すると決めるのに時間はかかりませんでした。何とゴムの日本代表選手の西澤氏もHLGキットを下さり後押しして頂いたこともあり、迷うことなくランチャーズさんの合宿に乱入したのが約一年前となります。

当初の私のHLGに対して抱いた正直な気持ちを言います。「こんなしんどい模型飛行機があるか」

正しい投げ方がなかなか理解できず、力一杯投げれば地面に激突して大破。空中にあげても良くて10秒。気が付くと息ゼイゼイで汗だくの自分と無惨に砕けた機体と疲労感だけが残っていました。

少なくともランチャーズの皆さんがおっしゃられるように「簡単」「基本」等と私には到底感じられず、ひたすらマニアックなカテゴリだと強く感じておりました。それからというもの毎日のように投げては壊しの個人特訓、何本の瞬間接着剤が消費されたことでしょう。体重もかなり減りました(これはよかった)。気が付くと雪が降る季節となり、積もった雪原で黙々と独り投げ続け、雪中深く刺さった機体を探して遭難しそうになりました。家の中で製作すると、舞い飛ぶおびたしい削り粉(バルサ粉)となかなか消えない重ね塗りラッカの匂いに家族から叱られました。春の声を聞き始めたころ、ようやくサマルに機体を拾われ念願の1分を越えたのでした。その時ようやくHLGが私にとって「しんどいだけの模型飛行機」でなくなりました。気が付くとHLGに夢中になっている自分がいたのです。

ライト・プレーンは翼台が大抵輪ゴム固定なので、主翼の位置の移動も取り付け角の変更(バルサ材を咬ます等)も容易ですが、HLGは上級機種を除きエポキシ接着ができません。又、尾翼のセッティングについてもライトプレーンはタブを追加したり折り曲げが効きますがバルサのHLGにはご法度のようなですね。反面、竹ひごライトプレーンは翼紙が破けると状況によっては張り替えなければならなくなりますが、バルサHLGはどんな壊れ方をして瞬間接着剤であつという間に直してしまう利便性がありますね。又、HLGはサマルを自分で捕える勘を身に付けることができ、ライト・プレーンはスラスト調整が身に付きます。

要は初心者の私が何を申し上げたいかといいますと、「初心者にはこれが一番!これはお勧めできない!」という機種は有り得ないのではないかと思います。偏尾さんは、最近掲示板に出ているYakumo氏の、FFの将来についての書き込みをどう感じておられますか。彼の書き込みのレスにどなたかが書かれたようにやはり「ラ

イト・プレンの袋小路」を信じておられますか。

これ以上底辺フライヤの増加は好ましくないと思われませんか。そうでなく、模型飛行機全般の普及をお望みでしょうか。野球を例にとりましょう。このスポーツを愛する者達全てが日本代表選手になれるわけはありませんし、それを望んでいるわけではありませんね。しかし至るところに公営の野球場は存在し、社会的に認められています。

偏尾さんはじめ日本を代表するベテランの方々をお願いしたいのです。初心者には「目次」を見せてあげて(こんなものもあるし、こんなものもあるよ)HLGでもライト・プレンでも、その人のやってみたくて選んだことをバックアップして頂きたいのです。場合によってはいきなり国際級とまでいかなくとも国内級規定競技機から始めたいという人も出て来るかもしれませんが、やはり本人がやりたいと思えるのが一番で永続きするのではと思います。まずはそうして人口を増やし「飛ばせる場所」を公に獲得していければ、その中からサンデーフライヤとコンテストフライヤも生まれてきましょうと、私なりに勝手ですが考えております。

私を見て頂きたいのです。ライト・プレンから始まり、それを続けながらも今やHLG、ペパ・グライダーをも愛し、RCの電動モタ・グライダーを同時進行している、サマル・ハンタ 志願のヒヨッコがいることを。長くなってしまいました。どうかご無礼お許し願います。近く、新潟でお会いできますことを楽しみにしております。

公園用500円HLGの勧め・その2

平尾・・・

会報・06年2号で勝手に新公園用HLGの提案をしましたが、今のところ会員の反応が解りませんが、解らないままにさらに公園用UHLGの提案をします。この機体を作った意図はランチャーズの夏の合宿で、HLG未経験者にも強引にHLGを飛ばさせるのための貸与機として、特に女性用、及び高齢者用として設計しました。

1. 設計の意図

非力な人でも投げられること、高度がさほど取れなくても良く飛ぶこと、投げを多少ドジっても返ること、ヘタが投げても壊れにくいこと、の4つです。前回のHLGとほぼ同じ様な設計ですが変更点としては、滑空スピードを遅くする為にフラップ翼を採用する、多分、地面に激突することが多いので翼端は全て丸くする。とにかく、返りの良いヒコーキとする、事にしました。

出来上がってヒコーキの諸元は展開スパン440mm、翼弦82mm、胴長420mm、翼面積3dm²、完成重量24g、翼面荷重8g/dm²の平凡な数字ですが、2機作ってみるといずれも素晴らしい飛びっぷりでした。

2. テストの結果

私が投げると高度20m以上、平均滞空性能40秒と言った所です。この大きさ(スパン40cm)になると、翼端投げの有利さが出てほどパワーが無くても素直に高度を取る。今回の合宿でHLGが初めての女性と76才の男性が10回ほど練習して、あっさり30秒を超える記録を出しました。投げ方にはチョットしたコツが要りますが、うまく返るとフワフワとゆっくり飛ぶので得した気分がするし、自分が上手に思えるのです。しかし、まずいことに飛ばした人がすっかり気に入って、それぞれお持ち帰りになってしまいました。アア。しかし、この機体は入門用としての傑作機と断言できます。

3. 作り方他

アンダーキャンバー翼の加工ですが、翼を整形し上反角を付ける前に翼下面にレザーソーで切り目を入れて折り曲げて瞬間接着剤で固めます。アンダーキャンバーは最も深い所で2mm付けています。この程度では上昇抵抗は余り大きくないようで、且つ、ゆっくりと滑空するので見た目の安全性があります。また、機体の大きさ、高度、旋回半径、飛行時間等が公園の広さにマッチしているの、狭い所でも気軽に楽しめる機体です。この大きさだと、さほど工夫しなくても十分な強度取れるし作りやすいのも取り得です。今後改良するとすれば、重り石のデサを主翼ホップアップ式にして、着木しても回収し易くする点でしょうか。図面別添

雑談天国

機体回収の道具・1

平尾・・・

勝手に飛んでいく機体を回収するのが、FF競技の醍醐味です、と書きたいのですが、実際は「やな、コッタ」です。近年は超小型発信器が普及したので随分と楽にはなりましたが、受信していても回収不能があります。その場合は悔しさが倍増して、且つ、コストがバカにならない。

中、大型機は搭載する発信器頼りでいいのですが、HLGはそうはいきません。30グラム程度の機体を探



査できる機器はまだありません。現在の超小型発信器機は2～3gですので、重量的には積めるのですが、投げた衝撃や墜落で発信器が行方不明になる可能性もあるし、1万円もする発信器を3千円の機体に載せる気にはなりません。図書館の本に貼られている検索シートの様な0.6g位の重さの発信器は開発されないでしょうか。

さてここで、GPSの登場です。イラク戦争で米軍の兵士が標準装備していたと言われていた優れものです。ご存じ・GPSは携帯用ナビゲーターと言ってよく、衛星と応答して画面の地図上に自分の位置を示してくれます。値段は物によって1万円台から10万近くまでありますが、3万円(Geko 301・29, 800円他)程度出すと、電子コンパス搭載で、発航場所で落下地点をねらって「ポチ」とやると発航地点から目的までの航跡を描いてくれますので、その線上を行けば機体があります。但し、磁気コンパスではため、電子コンパス機能がないとこれが出来ません。

HLGの場合は1分マックスなので落下地点がせいぜい数百メートルと近いので、毎回GPSを使用すべきかどうか迷うところですが、機体が見えにくい草むらの場合は極めて有効です。

GPSについてインターネットで調べていると5,980円で電子コンパス付き腕時計がありました(電子コンパス付きスポーツ時計・トラックマスター、コンパスはスイス製・発売元アテックス(株)、製造元は不明、検索はtrakms、税金送料込みで6,510円)。

安すぎるので疑心暗鬼ながら試しに買ってみました。品物が来てみると実際は磁気コンパスを使って画面をデジタル(電子)表示するものです。その他の機能としては、時計、ストップウォッチ、カウトダウン表示、アラームと様々な機能を搭載しているので損は無さそうです。コンパス表示には時間ズレがありますが磁石も正確なようで、目標方向位置を度(360度)表示するので解りやすい。前後の表示(反対方向は指示度数を180度引けばよい)も可能なので、到着地点から発航地点をねらえば位置ズレを確認出来ます。小型だしHLGに使いそうです。使ってみての感想は、数百メートルまでは使いそうですが、遠距離なると航跡が解らないのでGPSに分があります。

編集後記

会報発行が27年にもなると、私が幾ら無精でも少し航空力学の勉強がいるようです。これまではこちらの方は石井英夫氏に任せっきりで来ましたが、どうやらこれでは「アカンなー」と思いはじめました。やむなく、「模型飛行機〔理論と実際〕」や数式だらけの本を読むはめになりました。石井さんに「そこ、間違っているよ」と言われるのは覚悟の上で、次号からは航空力学に朝鮮(間違い! ロケット飛ばすな!!!)挑戦です。何をやるかはこれから考えます。しかし、調べてみると驚くほど模型飛行機の実験資料がないのです。

たまたま27年前のランチャーズの資料を見ると、今では揚抗比とかR数、翼断面とかの数字が「これは明らかに間違い」と解るほどには、模型ヒコーキ界は進歩したようです。感謝!!!

しかし、ここからが問題です。学問の世界ではまだ旧態然としていて、実学で鍛えた我々周知の模型の常識が通じません。たとえば、パチンコの発射と滑空の飛行速度のもの凄い差とか、昔では考えられなかったスゴイ・アンダーキャンバー翼とか、姿勢制御の動特性等々です。ここまできても実学をしない学者は辞めて貰いましょう。大学でシミュレーションしているインターネット上のテスト機を見るとガックリきます。まるで飛ばない模型飛行機でテストして、「どうするのよ」と言いたくなります。

ま・FF機は実機と極端に異なって、凄い上反角付きでやたらと胴長ですが、これが理解できていない。極限まで来ている滑空性能のための空力的洗練性とか、FFに絶対必要な姿勢制御のための自立安定、動安定の重要性の認識がないのです。一度、航空界の学者を集めて第1線のFF機（もちろん、パチンコらかF1Cまで）の飛行を見せる必要があると考えます。

* 封筒のお礼

会報発送用封筒を、KFCから大量に頂きました。封筒代もバカにならない額ですので大助かりで感謝です。サイズも適当で、会報を細かくたたまなくてもよいので随分と楽になりました。感謝！！

* 合宿・寄付のお礼

合宿のバーベキューパーティー用に湘南倶楽部と選手会より多額の寄付を頂きました。今年のバーベキューパーティーで、4月競技会を手伝ってくれた地元の皆様と我々のおなかに入りましたので報告致します。有り難うございました。

急増・読者のページ

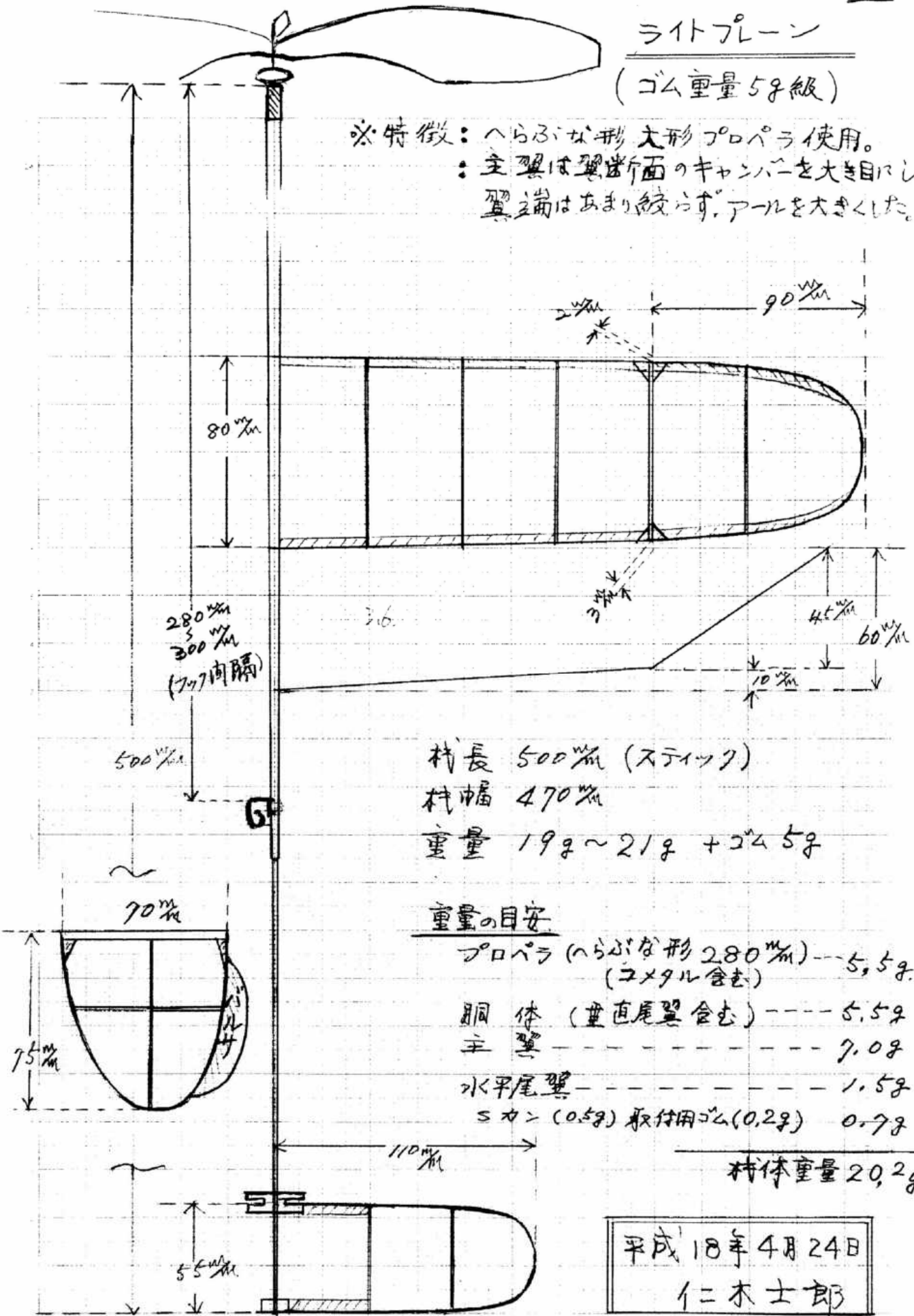
会報・6月号に、CFFC 野口様 から、ご感想を頂きましたので紹介します。

「連絡ではありませんが電腦会報の感想を書くところがないのでここに書かせていただきます。やはり番外？の2輪車の記事はとくに面白かったです。梅ジューズは早速仕込みました。（FFの世界選手権で各国の選手に披露して下さい）。これからも楽しい企画お願いします。

追伸 浜松出身といたしましてはスターはやはり”伊藤史郎”です

ライトプレーン
(ゴム重量5g級)

※特徴：へらぶな形大形プロペラ使用。
：主翼は翼断面のキャンバーを大きくし、
翼端はあまり絞らず、アールを大きくした。



全長 500mm (スライツク)
全幅 470mm
重量 19g ~ 21g + ゴム 5g

重量の目安

- プロペラ (へらぶな形 280mm) --- 5.5g
(コメタル含む)
- 胴体 (垂直尾翼含む) ---- 5.5g
- 主翼 ----- 7.0g
- 水平尾翼 ----- 1.5g
- Sカン (0.5g) 取付用ゴム (0.2g) 0.7g

機体重量 20.2g

平成18年4月24日
仁木士郎

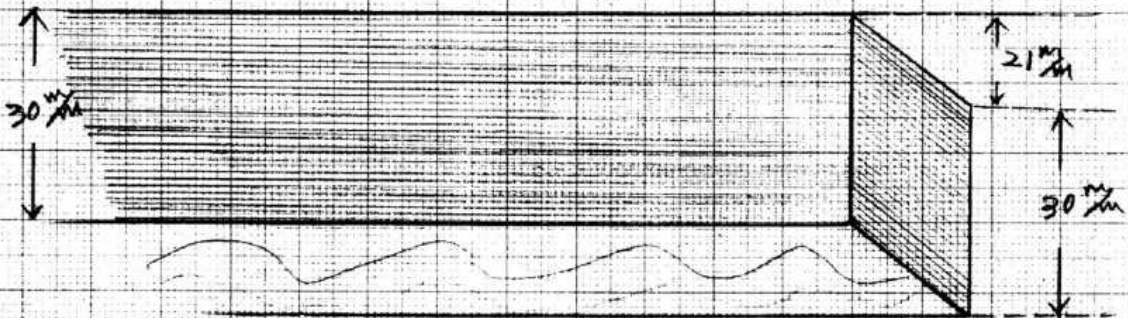
プロペラ (ハスびな形)

直径 280mm

(ゴム重量 5g・条数 6)

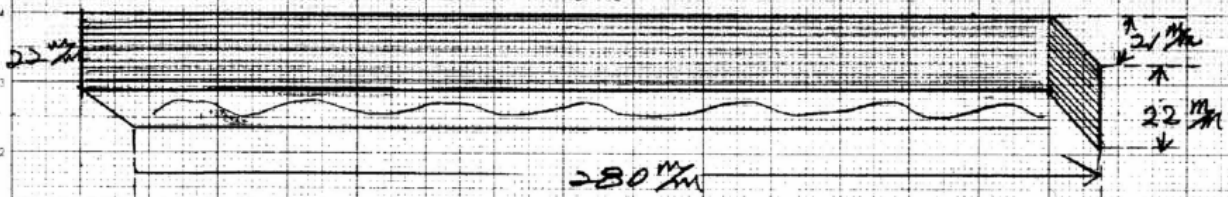
材料：市販品 米ヒバ → 巾 30mm × 厚さ 21mm × 長さ 900mm

材質は：色白で木目間隔が狭く、下図の様に木目は
直角に近い程良い。



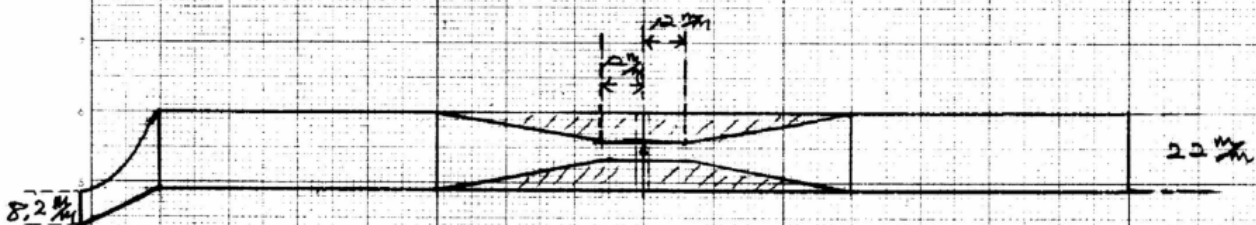
※作製用の木取り (縮尺 1/2)

幅：22mm・厚さ：21mm・長さ：280mm



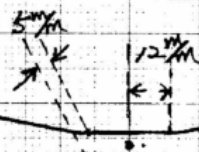
※斜線部を削り取る。

← 60mm * 40mm * 40mm *

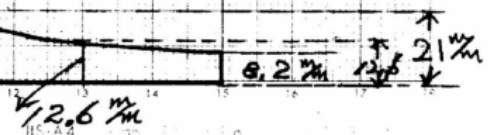


(平面図)

(側面図)



← 1.6φの穴



フリ投げ 25

2006.8 by. H. Hirao

フリ投げ機
右旋回
返りの調整は
水平尾翼の向角
でやる。

主翼面積 3.1 dm^2
機体重量 25 g
翼面荷重 $25/3.1 \approx 8 \text{ g/dm}^2$
要求性能 40 秒

